大仙市立中仙小学校学校報　令和５年度　NO.３４　令和５年１２月７日
夢に向かって　笑顔いっぱい　みんなでチャレンジ

輝く ひとみ

“楽らく 笑SHOW”な学校　なか１０００笑楽校

５年生「テレビ出演」？

秋田県学習状況調査！

全校のみんなが静かに気を遣いながら、令和５年度の県の学習状況調査がありました。
このテストには、主に昨年の後期と今年度のこれまでの学習内容が出題されています。例えば、「社会」の６年生は、今年勉強した公民的な分野と歴史的な分野に加えて、５年生で勉強した農業や工業なども例年出題されています。
初めてのチャレンジとなった４年生は、いつもとはひと味違った、神妙な面持ちで調査に向き合っていました。

【４年生】
ぱっぱと、まずは、「でかしてしまう」ことを大切にする人。長い文章に面食らっている人。
初めての調査に挑んだ４年生は、各教科の調査時間が３０分です。その時間の集中力の持続とか、何を聞かれていてどう答えるのかという、問題の意味を捉えることに苦労していた人も多かったのではないでしょうか？
もうすぐ、小学校の勉強の山場である５年生になるみなさんです。家庭学習ノートの表紙にある「めあて」を、この機会に家族で見直して、集中して自分から勉強することや、丁寧に書くことを鍛えてみてはどうでしょうか。

【５年生】
この調査にも慣れたような雰囲気の中で、淡々と問題に向き合っていました。
昨年度の調査では、県平均と比べると、国語と算数はよかったのですが、理科が低かったです。
５年生になると、調査の時間が４０分となり、問題数が多くなって、各設問そのものの文章表現もしつこく長くなります。この５年生の“壁”にどこまで力が通用したかな？
５年生の勉強ができていれば、６年生は楽勝！この冬休みは、将来の受験に向けても大きな岐路になりそうです。できることをやりましょう。

【６年生】
小学校最後の・・・調査です。すらすら順調に問題を解いている雰囲気が流れていました。
昨年度は、国語と理科が平均を上回り、算数と社会が下回りました。五分の星です。今年は勝ち越しか，全勝優勝か・・・？
言うまでもなく、中学に向けたラストスパートです。ちまたでは、“中学受験”に向かって猛烈に勉強している６年生も多くいます。自分の将来の“夢”や「高校、大学受験」に向かって、自分の学力を高める冬休みを企画してみてはいかがでしょうか？

この調査問題は、秋田県教育委員会が作っています。高校入試の問題もそうです。
子どもたちが、いつも家に持ち帰っているきれいなカラーの、いわゆる「業者テスト」とは、問題の量も質も違います。簡単に言うと、『難しい』のです。
この『難しい』問題を解いていく力を付けるには、学校の授業も『難しい』問題を取り入れたものになっていく必要があります。本校の先生方とも、この調査で感じた『難しさ』を課題として、授業でも、家庭学習でも取り組んでいくことを話しました。

この機会に・・・

これからの 子どもたちの 学力について

学習状況調査が終わって考えたいのは、将来に向けた子どもたちの学力についてです。
中学校、高校と進み、大学や就職へ・・・。これから、年を追う毎に、受験や〇〇試験がどんどん近くなって、現実味を帯びてきます。
まずは、中学校での学習レベルにスムーズに移行していくこと。そして、あっという間の３年後には、高校受験があります。下の表は、昨年度の秋田県高校入試の平均点です。今、４年生以上の学年の子どもたちがやっている業者テストの平均点は、およそ８０点程です。下の学年になると９０点程度です。
その平均が高校を受験するときには、６０点程になり、数学では半分の５０点程となります。極端な例えですが、**今、算数のテストで８０点くらいの人は、高校入試では５０点程**ということになります。

	国語	社会	数学	理科	英語	5科計
平均点	63.2	55.7	48.1	59.3	60.1	286.4

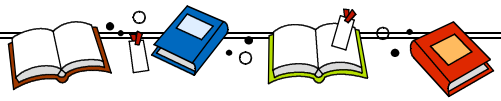
私がこれまで担任してきた高学年の保護者にこのことを話すと、「８０点だから大丈夫と思っていました」と、驚く方がとても多くいました。
今、全県の平均ぐらいの子どもが、そのままの成績だったら、高校入試では上の表に近い点数になりそうです。４年生以上は、今回の結果が届いたら、平均点と比較してみるのも、一つの指標になるかと思います。**1～3年生は、1月17日あたりにテスト**をしますので、同じような見方もできそうです。

暗記で勝負！は昔の話。
これからは、「考える力」「創る力」と「ICT」！

私が受験生だった昔は、多くのテストで、どれだけ覚えているかが問われていました。もちろん、今も「知識」は学力の土台なので、暗記することはとても大切です。ところが、今回の学習状況調査を見ても、「知識」だけを問う問題は少ないです。むしろ、**絵や図と知識とを関連付けて考えることや、自分なりに考えて書く力**が求められています。
前にもお話しましたが、公務員の採用試験でも、対策はずいぶん変化しているようです。つまり、知識は当然必要だけれども、『考える力』である「思考力」や「読解力」が必要ですし、「類推する力」『新しく創り出す力』が、ますます大切になってきています。
さらに、毎日タブレットを持ち帰っているように、**近いうちに、全国学力・学習状況調査はタブレットで実施**されますし、「情報」という教科も、２０２５年度の大学入試から導入されます。『ＩＣＴ活用能力』は，なくてはならない時代になっています。

そこで、中仙小学校では・・・

保護者のみな様にお願いした学校評価にも、家庭学習の内容や日記、タブレットの持ち帰りなどに関するご意見がありました。
「家庭の学習は家庭で！」が基本です。秋田県の学力が、日本一と騒がれた頃にもてはやされた「秋田式家庭学習」ですが、他県では静かな反応のようです。塾や通信教育が充実しているからなのかもしれません。それに、教員の働き方改革を進める上で、担任の先生がノートを見る時間こそ、改革が必要なことなのです。
それでも、本校では、ご家庭の協力の下で、役割を分担するやり方で２年間実施してきました。学校と家庭とが協力して子どもの学力を向上するための取組です。
「日記」については、**「何を書けばいいのかわからない」**と言った声もあるようですが、学校では、まさにそこをねらっています。つまり、「考える力」「判断する力」「書く力」を日常的に鍛えることが、未来につながる力だと思うからです。
また、「めあて」や「ふりかえり」も、『自分の勉強』という意識や意欲を向上していくための手法だと考えています。
タブレットは、もちろん「ＩＣＴ活用」の日常化を目指すものです。
決して、全てを強制するものではありませんので、ご家庭の方針に沿って、中止や変更をしてもよいと思います。特に、**冬休み中は、家庭での学習内容について、じっくりとお子さんと話し合ってみてはいかがでしょうか？**
ドリルの注文も届いています。将来、難関大学や難しい資格を取ることを目指すみなさんは、**学校のドリルをやるだけの勉強では不十分です。**いろんな問題集を探してチャレンジしてみるのもよいかと思います。



熱く、学力のことだけ書きました。
もちろん、優しさや温かさといった心の力と、心身の健康が学力の源です。
そして、友だちと仲よく過ごしていく、コミュニケーション能力も、今後ますます重要な力です。
今回は、もうすぐ引退する校長の、長い文字だらけメッセージを、笑って読んでください。